

「ぱちんこ依存問題に関する相談および回復支援」事業

遊技業界から「パチンコ・パチスロ依存問題」への注目が高まった一年

全日本社会貢献団体機構が独自に重要なテーマとして指定し、助成している特命助成「ぱちんこ依存問題に関する相談および回復支援事業」を展開している認定特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク、西村直之代表理事からの1年間の活動報告です。



認定NPO法人
リカバリーサポート・
ネットワーク 代表理事
西村直之さん

2006年に全日本遊技事業協同組合連合会の支援によって発足して8年を経て、リカバリーサポート・ネットワークの活動は、遊技業界によく広く認識されるようになってきた。IR推進法の議論を契機にパチンコ・パチスロの負の側面への注目が高まり、のめり込み問題に遊技業界が一体となって取り組む動きが立ち上がり、その動きを私たちも支持し、支援を行った。遊技人口の減少の影響などもあり、相談件数は減少したが、相談活動は着実に社会資源として根付いてきていることが感じられる一年であった。

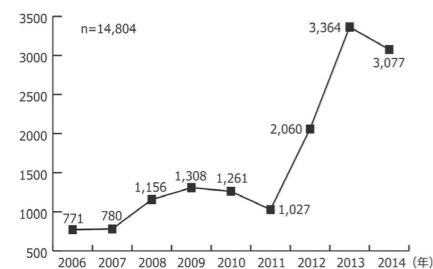
相談件数は、減少するも3,000件台を維持

リカバリーサポート・ネットワーク(以下RSN)は、日本で唯一のぱちんこ依存問題を専門とする相談機関である。相談者は、匿名で相談を受けることができ、相談料は無料。相談電話サービスの広報の主な手段として、啓発・告知用ポスターをパチンコホールの協力のもとホール内に貼付してもらう方法をとっている。

2012年、2013件と相談件数は急激に増加してきたが、2014年は、前年より約300件減少した。しかし、3,000件を超える相談が寄せられており、相談電話が社会資源として認知され、定着してきた感を受けている。

RSNの相談電話の特徴は、問題を持つぱちんこ参加者本人からの相談が約8割に上っていることだ。電話相談の開設当時も依存問題を専門とする援助者すら「依存問題を持つ人は、自分の問題を認めない。自分から助けを求

■年別相談件数の推移



前年より相談件数は減少したが、3,000件を超える相談が寄せられた。

めることは無い」という思い込みが支配的であった。私たちは、手を伸ばせば行動は生じるはずだ、問題は手を差し伸べる人の手の伸ばし方にあると信じ、取り組んできた。着実にその成果が数となって表れていると感じている。

遊技業界の啓発支援は、ホール内のポスター貼付の協力を留まらず、独自のメディアコンテンツでの紹介(ホール内で動画による情報提供など)やRSN相談電話番号が記載されたポケットティッシュの配布、啓発用ステッカーの作成、配送車両への啓発ポスターの貼付など多岐に渡るようになっていく。ホームページへのリンク協力も大きな効果を上げている。ホールや遊技関連団体以外にも、遊技関連情報誌による継続的な情報提供協力、ぱちんこ情報サイトのホームページリンク協力などによる活動支援もまた大きな力となっている。パチンコ・パチスロ産業21世紀会が、財政的な支援のみならず、依存問題対策の一環としてRSNの活動啓発支援をより強化することを決めたことは、大変心強く思っている。顧客保護は、健全な娯楽のためには不可欠な要素であり、依存(のめり込み)問題への対策は顧客保護のためには避けては通れない課題だ。RSNは、遊技産業に関わる多くの方が、自らの問題としてより一層高い意識を持ってもらえるように、働きかけを続けている。

電話相談は奥深い世界

遊技参加人口が1,000万人を割り込んだと2014年レジャー白書は報告している。その一方で、病的ギャンブラー

※パチンコ・パチスロ産業21世紀会

全日本遊技事業協同組合連合会、一般社団法人日本遊技関連事業協会、日本遊技機工業組合、日本電動式遊技機工業協同組合、全国遊技機商業協同組合連合会、回胴式遊技機商業協同組合、一般社団法人遊技場自動サービス機工業会、遊技場自動補給装置工業組合、遊技場メダル自動補給装置工業会、一般社団法人日本遊技産業経営者同友会、一般社団法人余暇環境整備推進協議会、一般社団法人パチンコ・チェーンストア協会、一般社団法人プリバードシステム協会、一般社団法人電子認証システム協議会



パチンコホールのトイレに貼ってもらうよう依頼している「啓発・告知用ポスター」

の疑いが国内に約530万人いるという報道がなされた。数値の問題はさておき、問題を持つ人が50万人でも10万人でも、たった一人であっても、「健全な娯楽」を目指す視点からは、同じことだと考えなければならない。より早期の介入のシステムを作り、問題が深刻化する前に踏みとどまり、行動習慣の修正によって苦痛や生活への負の影響を改善してもらうことを目標に、相談員は努力を続けている。日常と密接に関連する娯楽であるだけに、相談内容もさまざまである。相談者は頭では解っていても、いざその時になると自分の行動習慣を変える一歩はなかなか踏み出しづらいものである。その一歩を踏み出す勇気や動機づけを相談者に提供することはマニュアル化で対応できるものではなく、相談員の努力と経験の上に成り立つ確かな援助技術が求められる領域である。相談事業を継続する中で、私たちスタッフもまた成長し続けていかなければならない。

相談の中から見えてきた課題や対応の知恵を、相談員自身がニューズレターに定期的の特集としてまとめ、紹介をしている。また、相談データは、12月の末に締めると、相談員自身がデータベースを解析し、図表を作成し、翌年3月には電話相談事業年度報告書としてまとめ、製本し配布している。製本版以外にも、PDF版、電子書籍版を作成している。

遊技業界を取り巻く動きと依存問題対策への協力

IR推進法、いわゆるカジノ法案の影響で、パチンコ・パチスロへの依存(のめり込み)問題への世論の目は厳しさを増し、また政治的な議題としても取り上げられる機会が増えている。カジノとパチンコ・パチスロを同じように論じることは適切ではないと思うものの、娯楽は一般の人たちや地域社会の人たちが持つイメージやコンセンサスを基盤に成立するものである以上、いかなる契機であったとしても、課題が突きつけられれば向き合う必要がある。パチンコ・パチスロ産業21世紀会は、依存(のめり込み)問題の自主対策ガイド

ラインの策定に取り掛かり、その策定にRSNもこれまでの取り組みの中で得た知見を提供し協力を行っている。嗜好商品やその営業に関して、民間団体の連合体が、統一の依存問題の自主ガイドラインを作ることは日本においては先駆的な取り組みであり、その実現に微力ながら協力できていることを嬉しく思っている。

カジノ法案の動きとの関係ではなく、ホールが健全な遊技営業の提供を目指して依存問題に関する従業員研修を行う取り組みへの協力要請があり、管理職者からホールスタッフまで内容を変えながら、手探りながら研修を実施する機会にも恵まれるようになった。講演や視察の依頼には積極的に協力を行っている。

厚生労働省の研究班への参加、日工組社会安全財団の研究会によるパチンコ問題インベントリーの作成作業、他団体と協働によるセミナーの開催、車内放置事故の検証委員会への協力、学会での発表など地道に依存(のめり込み)問題の科学的知見の集積や提供にも取り組んでいる。

活動を続け、進めるほどにさまざまな課題が次々に湧いてくる。RSNを取り巻く状況も変わってきている。しかし、娯楽は世に必要であり、その娯楽が健全で、安全であることを願い、またそのようなものとなるように努力を続けていきたいと思っている。

「ぱちんこ依存問題電話相談事業年度報告書」の詳しい内容は下記RSN事務局(TEL:098-871-9671平日9時~17時)までご連絡ください。また、取り急ぎ内容をご覧になりたい場合は、「問題キャンピング知的情報サービスセンター」の専用ページよりPDFをダウンロードしてご覧ください。
●問題キャンピング知的情報サービスセンター
<http://rsn-sakura.jp/flop/new/report-download/>



2014年12月20~21日、ケアする人のケアセミナー(沖縄)。RSNが事務局、ワークショップ講師を担った